

# 人流データ利活用促進のためのシンポジウム

## 人流データの取組について

令和5年1月31日

国土交通省不動産・建設経済局情報活用推進課

## 人流データとは、特定の場所・時間において何人いるかについて表すデータ

- ・センサー、カメラ、GPS、携帯機器などから取得
- ・時間、位置の情報をもつ
- ・取り方により属性（年齢、性別など）などの情報も含まれる

### 【計測・集計方法】

- 通行者数、通過方向の計測 → カウントデータ
- 特定の空間における滞在人数、滞在時間の計測 → 滞留データ
- 前後の滞在地の把握 → ODデータ
- 一人一人の移動経路の把握 → 移動軌跡データ

人流データは、まちづくり、防災、観光、商工、福祉等様々な分野での活用が期待される**ビッグデータの一つ**である。

## 【活用例】

- ・歩行者数の把握によるイベントでの誘導
- ・災害時の避難所の混雑状況の把握・分散化
- ・主要施設における密集状況の把握
- ・施設への訪問者の属性情報の把握

近年リアルタイムでの収集・把握が可能となっており、多様な分野での活用を通じ、EBPMに基づいた効果的・効率的な地域政策の推進や、新たなサービスの創出等が期待される。

## 国土交通省における人流に関する事業について

人流データは行政レベルでの利用が十分に進んでいないため、利用環境整備を進め、地方自治体等での活用促進を図っていく。

### 【H30実施事業】

さいたま新都心エリアでの人流データ計測

### 【R2実施事業】

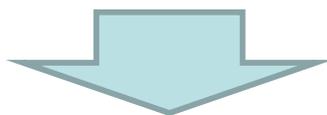
大手町・丸の内・有楽町（大丸有）での人流データ計測（R3.1～2）

### 【R2～3実施事業】

- ・コロナウイルスが人々の行動変容に及ぼす影響の分析調査
- ・人流データのG空間情報センターでの提供（2019～2021年分）

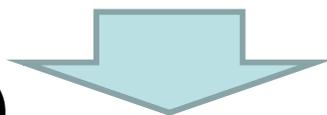
## 【R3実施事業】

- ・全国6地域での人流データを活用した**モデル事業**によるユースケース発掘
- ・「地域課題解決のための人流データ利活用の**手引き**」の作成



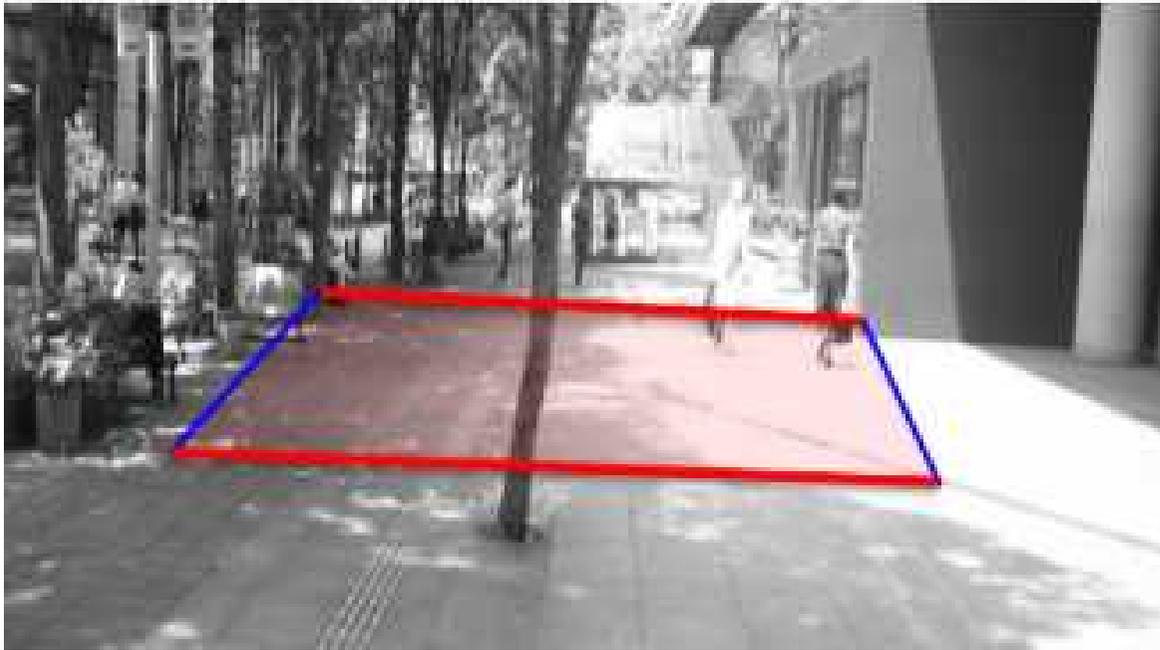
## 【R4実施事業】（実施中）

人流データの統一的な**フォーマット**の提案・**可視化ツール**の試作公開



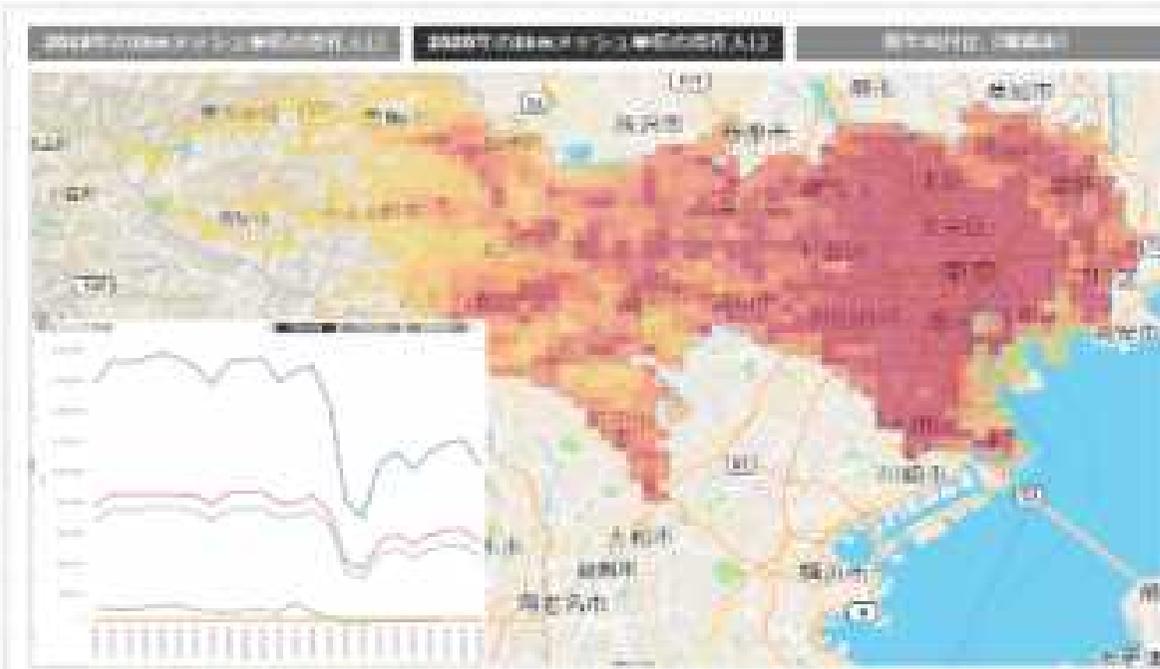
## 【R5実施事業】（実施予定）

土地・不動産分野等における人流データ活用拡大検討



### 【R2】大丸有での人流計測

- ・地上、地下の2カ所で1ヶ月間計測
- ・センサーをそれぞれ2カ所に設置
- ・計測データはGセンターにて公開



### 【R2~3】

全国の人流データをGセンターにて公開

- ・2019.1~2021.12までの3年分
- ・1キロメッシュ単位・市区町村単位別
- ・タブローを用いての視覚化も実施

## R3モデル事業の取組の成果（人流データのグラフ化）：湘南モノレールの例

### カメラによる混雑情報の取得・精度検証

- ・ほぼ100%に近い精度でデータを取得できている(推計不要)
- ・簡易改札の駅においてはカメラの方が正確な数値と考えられる

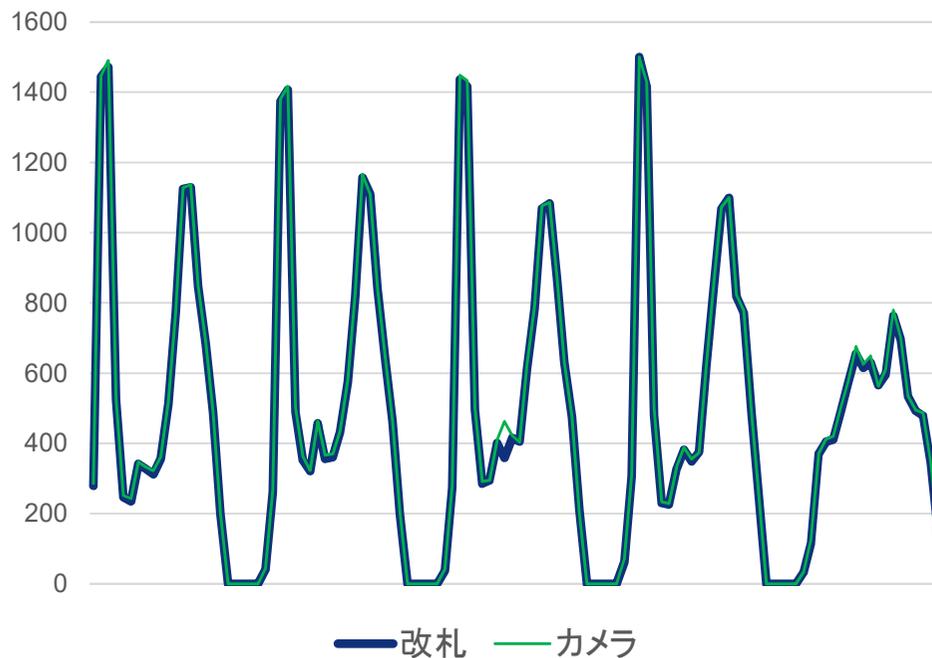


自動改札

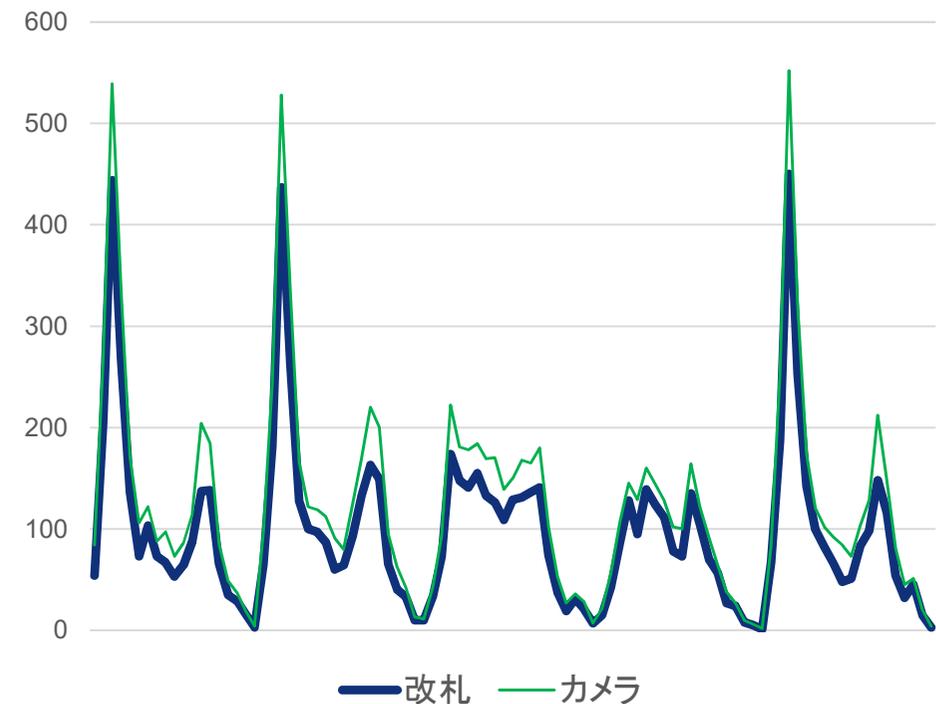


簡易改札

大船駅(自動改札) 乗車人数



湘南深沢駅(簡易改札) 乗車人数



## R3モデル事業の取組の成果（観光交通における人流データの活用）：会津若松市の例

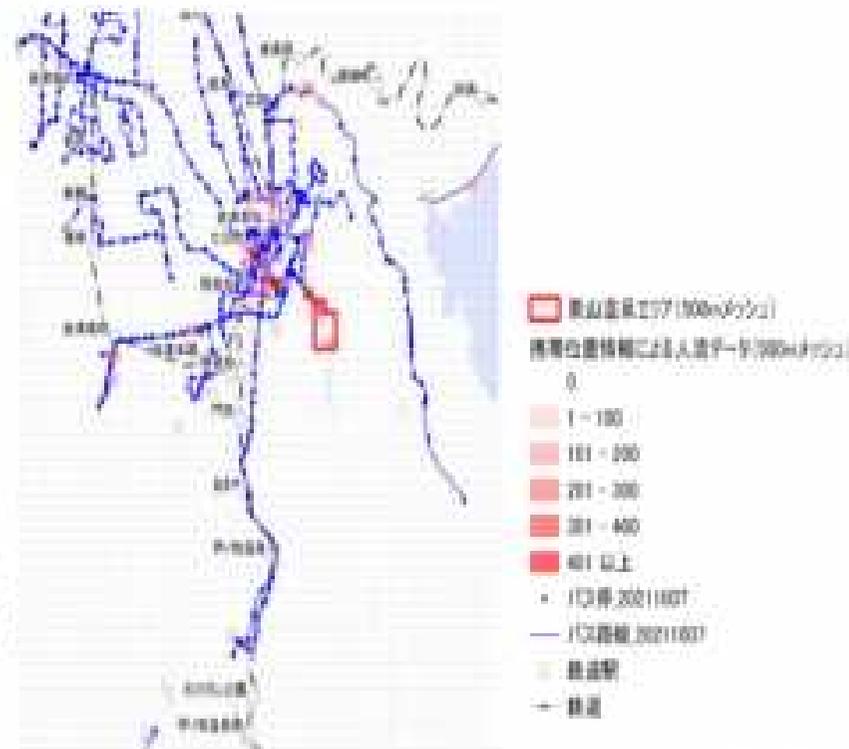
### 観光客向けAIオンデマンド利用データ×携帯位置情報による人流データ

#### 東山温泉宿泊者の観光周遊の範囲（携帯位置情報）



#### 東山温泉宿泊者の移動先

- 観光スポットへの移動が多くみられ、概ねAIオンデマンドエリア内に納まっている。
- コロナ前（2019年）のデータでは、エリア外の観光周遊もみられる。



## 人流の新たな活用

## 活用範囲・分野は拡大の一途！

### 【一例】

- ソフトな分析 → 趣味の集まりの動きなど**ターゲット**の多様化
- まちの可視化 → ダッシュボードによる**リアルタイム**情報
- 交通安全 → 事故多発地点・頻度把握
- リスク評価 → 保険での活用
- AIと連動 → **将来予測**
- デジタルツイン → **3Dシミュレーション**
- 訪日客分析 → **観光戦略**
- 帰宅困難者対策 → **誘導**、情報発信
- 属性分析 → ニーズの把握、**サイネージ**表示、広告
- 他の情報との組み合わせ → 気象、POS、災害、・・・
- さらなる分野の拡大 → 環境、健康、土地・不動産、・・・

## 人流データの課題認識

### 公共分野での活用を含め、利用範囲・用途がまだまだ不足



#### 【解決すべき点】

- 活用事例の周知 → まだまだ知られていない、**普及**が必要
- 人材育成 → **分析・解釈**できる人が足りない
- 入手容易性 → **コスト**面の問題
- 計測時の調整 → **多くの手続き**が必要
- 個人情報 → **ハードル**を下げる工夫、**秘匿処理**、**推計**

#### 【期待されるもの】

- 計測技術 → **機器の性能向上**、**分析技術の進展**
- 予測技術 → **AI**を活用、**各種予測への活用**
- 流通促進 → **オープンデータ化**
- アイデア・発想 → **実現不可能**と思い込んでいたものの**実現**